

第7号

熱田高同窓会報

発行
愛知県立熱田高等学校
同窓会事務局
TEL (052) 652-5858

愛知県立熱田高等学校同窓会総会 創立45周年記念祝賀会



左から日下9代校長、木下8代校長、櫻井6代校長、佐々木同窓会長、藤野2代校長、日々野4代校長、鈴木5代校長、村本現校長

同窓会にご協力ありがとうございました

同窓会会長 佐々木 元彦

同窓会々員の皆様には、益々ご健勝でご活躍のことと存じます。今年三月熱田高校を卒業し、新たに同窓会へ入会されました皆様方ご卒業を心からお祝い申し上げます。

大部分の方は上級学校へ進学され、と思ひますが、そのまま社会に出られる方もあると思ひます。「初心忘れるべからず」「初志貫徹」勇気と希望を持って前進して下さい。

さて、平成九年十一月二十四日、名古屋国際ホテルで、創立四十五周年記念総会並びに祝賀会を皆様のご協力とご支援により、盛会のうちに終了することができました。歴代校長、恩師の皆様方、現職の先生方にもご出席賜り、懐かしい話に楽しい一時を過ごさせていただきました。次回の五十周年記念総会にも、ぜひお元気で再会できますことを祈念しております。

残念なことは、初代校長積木倫一先生が、平成八年八月に(享年九十二才)ご逝去されたことです。皆様とともにご冥福をお祈りしたいと思います。

創立四十五周年記念活動実績

- 一、学校関係者の永年勤続表彰
- 一、玄関前ロータリーの改造工事
- 一、ウォータークーラーの寄贈
- 一、会員名簿の作成

『活気ある我が母校へ』

創立時より校技であるサッカーが、

二十二年振りに全国高等学校総合体育大会(インター杯)へ愛知県代表として出場が決まり、続いてテニス部・陸上競技部も出場を勝ち取り、八月一日の香川県高松市開催の大会参加にむけ、それぞれ最後の調整に励んでいます。この嬉しいニュースを同窓会員の皆様にご報告申し上げます。私ども同窓会としては、このインター杯出場に対し、皆様方のご声援と共に、物質的な応援も考え、学校の要望等も考慮して、種々検討の結果、役員会で次の三点を決めさせていただきます。

- 一、出場記念祝賀看板の寄贈
- ・正面玄関用立看板
- ・テニスコート側面用大看板
- 一、出場記念激励金の贈呈
- 一、現地応援参加バスへの支援(各OB会・父母会にて取りまとめ)

以上の三点を遂行するために、同窓会員の皆様に、一口 金五千円、ご寄付をお願い致したく、同窓会報に振込用紙を同封申し上げます。どうぞ後輩諸君へ、よろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。

おわりに、選手の皆さんが持てる力を十分に発揮されますよう、より熱田高校が活性化されますようお祈りし、同窓生各位のご健勝とご活躍を、母校の益々の発展を願ってご挨拶とします。

平成十年七月一日

サッカー、そしてテニス・陸上がインターハイへ



現校長 村本 邦夫

そのホイッスルは

夏の日差しの中で鳴りました。小さく、断続的に。時間の流れが一瞬、止まりました。思わず立ち上がった。思わず立ち上がった。思わず立ち上がった。

五月三十一日昼下がり、口論義運動公園でのことでした。

試合開始前、マネージャーの女生徒が「：回生の方からです」と言って、スパーの袋に冷たい飲み物をいただいておりました。試合終了後、「インターハイへ行ったのは僕たちが最後でした。嬉しいですよ」と声をかけてくださった家族連れのOBもみえました。その会場には、県サッカー界のリーダー森本生はもとより、稲垣、万前、太田、古田、森本と歴代のサッカー部顧問がそろっておられたのも、泰斗藤野先生がおいでくださったのも、関係者の並々ではない熱き思いを感じます。

インターハイ出場を決めた勝利の瞬間、ある写真が脳裏をかすめました。それは、体育準備室に掲げられているまさにセピア色した写真です。昭和四十九年度全国高校総体（長居陸上競技場・うつほサッカー場）での入場行進のものです。校旗を先頭に、堂々と行進する熱田健児の雄姿です。続いて、昭和五十五年一度と県大会を三連覇し、インターハイへ駒を進める偉業が達成されています。今回の快挙を報じた新聞の見出し「熱田、全国切符」に「二十二年ぶり」との注が付いた由

縁はここにあります。

サッカーに続いて、硬式テニス（ダブルス 土川・秋山）と陸上（女子やり投げ村田）が今夏のインターハイへ出場します。

テニスは昭和四十一年、三十二年、今年、富田高氏が青森大会に、陸上は昭和五十五年、十八年前、久野氏が女子四〇〇米で愛媛大会にそれぞれ出場されて以来のことです。

先輩の輝かしい足跡と伝統に支えられて生徒たちは大きな舞台に立つことができました。

彼らに対して同窓会から手厚いご配慮をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。お祝いに立てていただきました看板は、出場選手にとつて大きな励みになるものではないでしょうか。

日々これを目にする一般の在校生も、熱田高校に対する誇りと、自分の将来に何か明るい希望を感じてくれるものと信じます。それが、本校が一段と飛躍するきっかけになるとを願ってやみません。



最近の進学状況

進路主任 伊藤 武和

「大学が選ぶ時代」から「大学を選ぶ時代」へというのが最近の進学状況を表す世間的な言葉です。ひところは偏差値にこだわって進路を決めざるを得なかったのですが、少子化の影響で、競争率が二倍を切る大学や短大も多く、いかにして受験生を集めるかに大学は血眼になっています。本校でも、以前は入り

にくかった大学に結構入っています。もちろん受験生の努力もあるでしょうが、社会的影響も大きいのです。

もう一つの特徴は、女子の短大離れです。これも全国的な影響を受けていますが、四年制を目指す女子が増えてきています。

一学年九クラスが完結し、教室に少し余裕ができたため、手狭だった進路室を広くして、生徒が本当に行きたい進路選択ができる資料室として拡充したいと考えています。

資料 進学状況の報告

(1) 最近5年間の進路実数（現役のみ）

	四年制大学		短大	専修学校等	就職	浪人
	国公立	私立				
平成9年度	21	170	51	36	5	106
平成8年度	26	160	49	41	9	124
平成7年度	15	161	70	31	8	130
平成6年度	21	160	93	24	12	132
平成5年度	23	178	86	24	8	125

(2) 平成9年度合格状況

大学名	現役	OB	計
国公立			
筑波大	2		2
信州大	3	2	5
富山大		2	2
岐阜大	4	1	5
愛教大	3	3	6
名大	1	1	2
名工大	3	1	4
三重大学	3	2	5
都留文大	2		2
愛知県大	4		4
私立			
東京農大		5	5
日本大	3	5	8
明治大	1	3	4
早稲田大	1	3	4
岐阜聖徳大	6	3	9

大学名	現役	OB	計
愛知大	22	22	44
愛知学院大	29	16	45
愛知学泉大	4	2	6
愛知工大	19	14	33
愛知淑徳大	7		7
金城学院大	4		4
椋山女学園大	14	1	15
大同工大	5	3	8
中京大	33	25	58
中部大	24	17	41
同朋大	5		5
名外大	21	1	22
名学院大	16	8	24
名女大	4	1	5
南山大	3	10	13
日福大	5	7	12
藤田保衛大	4		4

大学名	現役	OB	計
名城大	25	28	53
京都産大	1	9	10
同志社大	1	6	7
立命館大	3	9	12
龍谷大		4	4
関西大		9	9
近畿大	1	7	8
関西学院		4	4
短大			
愛知淑短	5		5
愛知女子短	6	2	8
愛知大短	4	1	5
金城学院短	5		5
椋山女短	7		7
東海学園短	10	1	11
名女大短	9		9
名文理短	7		7

テニス(ダブルス)

硬式テニス部 三年 土川 貴之



今まで、高校生活のほとんどをテニスの練習に費やしてきました。ようやく念願だったインター杯出場にたどり着くことができました。

気合を入れて臨んだシングルス戦では、思わぬところで負け、「もう俺の高校テニスも終わった」と諦めかけていました。しかし、ダブルス戦は絶好調で自分達よりもレベルの高い相手、二チームとも長い長い大接戦の末、終ってみて気付いたら勝っていました。試合が終わったのは午後八時三十分でした。

練習で疲れてブツ倒れそうになったり、試合に勝って喜んだり、いつもどおりの力が出しきれずに負けたり、いろんな思いをしてみました。最後の最後が一番大きな喜びで終えられて本当に良かったと思います。

インター杯では強い人達に一つでも多く勝つよう一〇〇パーセントの自分の力を出し切って頑張ってきました。

硬式テニス部 三年 秋山 慶太
僕は、インター杯に出場したいと



思っていたけれど、本当に出られるとは思っていませんでした。地区予選や県大会では、けっこう危なっかしい所もあって、自信もなくなっていました。しかし、先生・コーチの助言で集中ができ、楽しんでテニスができるようになりました。出場権を得られたのもリラックスしてテニスができたからだと思います。最後に、全国大会では、みんなの期待に答えることができるように、頑張ります。

やり投げ

陸上競技部 三年 村田 暁子



今まで手の届くことができなかったインターハイに行くことが夢のようで、自分でも驚いて

いるくらいです。

私がやり投げを始めたのは、二年生の九月。夏休みに先生に勧められたのがきっかけだが、もし、やるなら最低一年はかかると言われたとき、そのころには引退していることを考えるとどうしてもやる気がしなかつた。決意するのになんか時間がかかったけど、今、思うと先生を信



00/14 熱田

じて決めたのがよかったと思う。デビュー戦から東海大会までいろいろな大会に出て、順調に記録を延ばし、次々に自己記録を更新するまでに成長した。ここまでくるのに、悩みは多かった。そんなときいつも先生に励まされ、勇気づけられた。東海大会では、雰囲気は全く違って、圧倒された。レベルもかなり高く記録も思わしくなかったとき、涙がこぼれた。先生に言われたことを思い出したとき、気が楽になって集中することができた。インターハイに行けることが決まった瞬間、嬉しくて涙が出てきた。

やり投げを始めると同時に新しい先生とがんばってこれ、先生の任期が終わる前にいい試合ができてうれしかった。

こうしてインターハイに行けるのも顧問の先生、友達、後輩など多くの人に支えられたからで、応援してくれた人たちに感謝しています。

陸上競技部顧問 船橋 優子



「有森裕子知ってる？」と聞いたら「名前だけは聞いた事がある」又は、「メダリスト」といった答えが返ってくる。

有森裕子は何らかのかたちで誰もが知っている陸上選手である。

陸上競技はメジャーではないけれど世界的レベルで戦うことのできる競技である。有森裕子の専門種目はマラソン。マラソンとスポーツテストで行なう持久走とは少し違うけれど走る事では一緒なので多少たりとも馴みのある種目であろう。例えば「やり投げ知ってる？」と聞いた時自信を持って「ルールまで知ってる」と答える人は専門で行なってきた人以外はいないであろう。大概の人は、「種目名は聞いた事があるけれど見たことがない」と言うであろう。

陸上競技の中でもメジャーではないやり投げに我が校から一人の選手がインターハイに出場する事が決った。東海地区だけでも400人以上の選手がいるのにその中の五番目で、本当にすばらしい事である。

自分がかかわった生徒をインターハイに送り出す事ができ大変嬉しく思う。地味な練習が多いが、コツコツとがんばりベスト記録を出し続けてほしい。インターハイはあくまでも通過点であり終点ではない。

サッカー

インターハイ出場を手に入れるまで

サッカー部顧問 江崎 由幸



この四月に伝統ある熱田高校に赴任して数ヶ月が過ぎようとしています。この数ヶ月の間にサッカー部の生徒にとっても、私自身にとっても全国大会出場のキップを手に入れることができ、とてもすばらしい時間を過ごすことができたと思っています。これも偏にサッカー部を取り巻く様々な方々の御支援の賜物であり、心から感謝いたします。

4月19日の名南支部一回戦、いよいよ始まるという気持ちの高ぶりを抑えながらのスタートでした。生徒の緊張も感じましたが、無事に県大会への出場権を手にし、まずは安心といったところでした。5月9日県大会一回戦、岡崎城西高との試合はPK戦までもつれ込み、これを何とか勝利で乗り切ったことが今になっています。つづく試合にも苦しみながらも勝ちベスト4に入った段階で全国が見え始めました。ここからはいかに生徒が冷静に、決して浮かれることなく全国大会出場に向けての試合に最高のプレーができるように何をすべきかを話し続けました。生徒も私の話素直に耳を傾けてくれ、結果的に優勝は逃しましたが、準備

勝という立派な成績を残してくれました。今後は県代表という名にふさわしい試合をしていくために生徒とともに日々精進していくつもりです。これからの御支援を何とぞよろしくお願い致します。

『挑戦と結果』

サッカー部主将 三年 小川 敦史



僕が高校受験の時、熱田高校を志望したのは、サッカー部に入部して全国大会に出場する夢があったからです。僕の学年は、毎年顧問の先生が変わるといふ不運な

学年で辛い思いもしましたが、今思えば多くの先生方に指導された事が、良い結果を導いたのだと思います。この大会の予選は本場に厳しかったです。県大会では、PK戦を除いて全試合一点差と気の抜けない試合が続きました。約一ヶ月間続いた試合だったから、疲れもピークになっていました。決勝リーグでは、初戦で負けてしまい崖っぷちに立たされました。しかし、チーム一丸となり戦い抜き全国大会出場を決めることができました。

全国大会では、「挑戦」の気持ち忘れず、愛知の代表として全力で戦い少しでも上位を狙いたいです。この様な結果が出せたのも、良い環境を作って下さったOBや保護者、仲間の皆様のサポートがあったからと感謝しています。

愛知三好熱田全国切符

初出場 22年ぶり

高校総体予選

高校総体サッカーの愛知県予選は三十一日、愛知県白進市の口論義運動公園で四校による決勝リーグ3回戦2試合が行われ、優勝の三好と2位の熱田が全国大会出場を決めた。また岐阜、三重の決勝も同日行われ、それぞれ岐阜工、四日市中央工が優勝。八月に香川県で行われる高校総

体に出場する。

公立旋風起こすぞ

初出場の三好に続いて、熱田が、昭和五十一年以来、実に二十二年ぶりの総体出場を決めた。小川敦史主将(3年)は「楽な試合は1試合もなかったが、また強い熱田をつくろうとみんなで助け合っ、こころをみんまで助け合っ張る。全国切符をかけた東郷戦では、後半9分、F野川真哉(2年)の挙げたゴールを守りきった。昭和五十年代前半まで総体、選手権にそれれ四度出場。だが愛知、岡崎城西など私立校の台頭と入れ替わるように、全国大会とは縁遠くなっていた。

今予選では、強豪校が序盤で相次いで姿を消す荒れ模様。熱田は一回戦で岡崎城西を破って彼に乗った。江崎由幸監督(3)は「以前は松学の二、三校がすばぬけて強かったが、最近は実力差がなく、どの学校にもチャンスが出てきた。全国大会の実感はまだわからないが、一つでも多く勝ちたい」と抱負を話した。

愛知決勝リーグ

熱	田	1	(0-0)	0	東	郷
三	好	2	(1-1)	1	高	陽
④	尚	徳	(1-0)	1	尚	徳

▽最終順位①三好②熱田③東郷④尚徳

(中日スポーツより)



『決意』

サッカー部 二年 松岡 俊昭

県大会が終り、僕たちは今、全国大会に向けて、練習に励んでいます。残された課題を一つ一つ改善しながら、チームの「挑戦」という合い言葉の頭において、いろいろな事にチャレンジしています。

愛知県代表として、母校の榮譽と誇りを持って、全国高校総体に臨みたいと思います。そして、一つでもより多くの勝利の結果を出せるように、残り少ない期間を燃えます。

がんばれ!!熱高サッカー部

元サッカー部顧問 稲垣 健一

全国高校総体出場おめでとう。苦節十年と申しますが、昭和五一年(新潟大会)以来二二年振りにはまさに臥薪嘗胆そのものであり、サッカー部員の粉骨砕身練習に汗を流した結果に頭の下る思いをしております。



しかし、これも先輩の皆さんが高校選手権四回、インターハイ四回、国体一回と計九回の全国大会に出場し成果を挙げた偉大な歴史の裏付けがあつてこそということをお忘れしないでほしいと思います。

県大会では苦戦の末の勝利、東海大会では善戦でした。これこそ大いなる糧になったと思います。全国大会では一校として楽に勝てる相手はありません。ピンチに立った時サツ

カー部の歴史を想い出し、多くのサポーターの熱い声援に精一ぱいのプレーで応え、楽しんで下さい。君達なら悔いのないゲームをしてくれると信じます。そして、サッカー部の歴史に新しい一頁を刻んで下さい。呉々も健康に留意し、チーム一丸となつて大いに青春を燃えて下さい。

大きな声で叫びます。
「全国総体出場おめでとう!!」
「頑張れ!!熱高サッカー部」

『三十年前の全国大会』

十五回生サッカー部主将 田嶋 晴次 (トヨタ自動車勤務)

ちょうど三十年前、私は良き指導者とチームメイトに恵まれ、三度の全国大会を経験させて頂きました。それまでインター杯・国体・高校選手権などは、サツ



カーマガジンの記事でのがが、実際、我身の事として現在も、鮮明に浮かびあ

がります。インター杯の開会式は、それまでテレビで放映されるものを一人の観客として見ていた者が、逆にフィールド側に立ち、入場行進した時の感動を、今だに忘れません。この度、出場される現役の皆さんは、選ばれた誇りと予選を勝ち抜いた自信を持って、堂々と母校の名譽のために戦ってください。私は、故あつて体を不自由にしてしまいました。当時の全国大会出場経験の誇りと、いい思い出として生き抜いていきます。

この度の全国大会出場、おめでとうございます。一人のOBとして影ながら、皆さんの健闘を祈って激励の言葉とします。

定時制は今

教頭 上田 靖彦



熱田高校の定時制に赴任して早や四年目。三十年以上の全日制勤務から異動して受けたカルチャー・ショックは、つい最近の様に感じられる昨今です。教育改革の波を受けて、定時制課程も大きな転換期を迎えております。定時制に入学してくる生徒数の減少、生涯教育の場としての学校、働らきながら学ぶ学校から、働らく生徒も学ぶ学校へと、旧来の学校像が大きく変転していきます。また、学校週五日制に向けた大きなうねりの中に入ろうとしています。

さて、昨年の十一月、熱田高校創立四十五周年の式典が盛大に催されました。周年を記念して発行された会員名簿には、昭和四十四年卒の一回生から平成九年卒の二十九回生まで、一、〇二二名の卒業生名が記載されています。熱田の学び舎で共に学んだ同窓生が各界で活躍されている様子を参会者の方からうかがい、頼もしく感じると共に、これから送り出す生徒達のことを考え、身の引き締まる思いがしました。在校生は九十数名にすぎませんが、幸にも、授業は落ち着いた雰囲気の中

で行われ、「授業を大切に」の精神が浸透しています。三月の卒業生は十四名でしたが、その内七名は志望校へ進学することができました。部活動も盛んで、特に、陸上競技部は今年で四年連続、全国大会出場という目ざましい活躍をしています。とりわけ、昨年の円盤投での優勝は、学校全体に明るさと自信を与えてくれました。

また、平成八年二月には食堂棟が新築され、長年の夢がかないました。これもひとえに、諸先輩方の食堂建設にご尽力いただいた賜物と感謝の念で一杯です。一限終了後の給食時には全生徒が一堂に会し、先生方とも談笑する声が絶えません。県下の定時制高校も統廃合が進む中で、熱田の定時の灯は燃やしつづけねばなりません。間近に迫る二十一世紀への展望をしっかりと胸に抱きつつ……。

全国高校定通陸上競技大会出場者
三年 末元 信一 砲丸投・円盤投
三年 大西みゆき 走高跳・走幅跳

平成10年度教職員の消息
本校で長年にわたり、ご尽力いただいた方々が去られ、名残惜しい気持ちで一杯です。厚くお礼申し上げます。今後の益々のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。代わりに新進気鋭の先生方を迎え、これからの活躍が期待されます。

転出	森本 裕康(2)	県教スポーツ課
増澤 浩司(1)	数学・旭丘高	
沼本 紀子(1)	英語・愛知商業高	
水上かほる(5)	一宮壁	
大久保 忠(3)	県統計課	
転入	江崎 由幸	体育・稲沢高
大野 美鈴	英語・南陽高	
青木 実	数学・惟信高	
斎藤 幸子	佐織養護学校	
佐々木武張	祖父江高	

創立45周年記念

平成九年十一月二十四日(月)、午後二時、名古屋国際ホテルの二階全室とフロアーを会場にして、参加者約350余名の教職員・卒業生が一同に会し、同窓会総会並びに創立四十五年記念祝賀会がとり行なわれました。二回生田中副会長の司会です...



同期会は式典の前に五回生が旧交を暖められ、一、二、四、六、七回生が式典後同期会を開き、十五回生

は場所を変えて、それぞれにぎしく開催されました。

この総会・祝賀会を準備するにあたり、約一ケ年の準備期間を設け、実行委員会を組織し、延べ幾百人かの卒業生の皆様の献身的な、ご尽力をいただきました事をご報告します。会員名簿づくりはなかなか進まず、困難を究めました。この度、名簿づくり専門の関西廣濟堂名古屋営業所長瀧澤氏の絶大な協力によって、かなり精度もあがりました事をご報告しておきます。次回の五年後の会員名簿改定は、更に良くなっていくことと思えます。しかし、個人情報をお大切に扱う時代でございます。名簿の扱いは、事務局としても慎重にし、卒業生の皆様の購入以外には販売しておりません。どうか、転用されることの無いよう、この紙面をお借りしてお願い申し上げます。(事務局より)

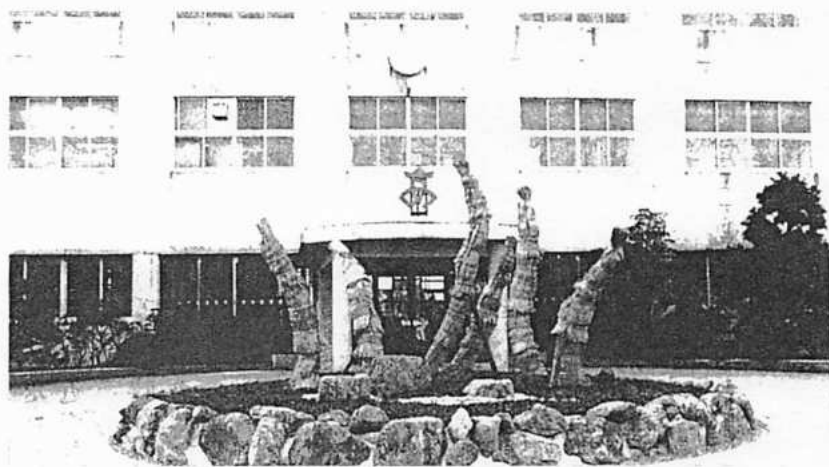
永年勤続表彰者(敬称略・順序不同)

- 全日制・定時制教職員
国分一郎、高岸郁夫、加藤康一
福田健治、杉原 修、植田治夫
山田志郎、曾根靖子、村手文恵
上村聰子、中村和代、増澤浩司
沼本紀子、松原継彦、伊藤充久
小島 哲、谷澤 伸、伊藤武和三浦 博、桂川昌子、芦田健一村上俊雄、間瀬憲一、西浜久文

会館の改正について(平成十二年四月より)
一、値上げにともない、会則第十二条 金五千円
一、内規 慶弔に関する定め。

創立45周年記念寄付

玄関前ロタリー改造工事
ウォータークーラーの寄贈



同窓会役員

(平成10年4月1日より)

- 会長 佐々木元彦 1
副会長 田中敬正 2
1 岩淵正憲 3
2 豊田和弘 4
3 秋田政幸 5
4 万前幸男 6
5 小林勝治 7
6 小井上亜夫 8
7 武藤史世 9
8 杉山交伸 10
9 山沢隆幸 11
10 内藤利富 12
11 山田村康伸 13
12 江村治夫 14
13 小高岸郁夫 15
14 西田和雄 16
15 近藤かをり 17
16 勝野恒光 18
17 青木実苗 19
18 近藤早苗 20
19 浅井裕久 21
20 川辺浩文 22
21 西浜久文 23
22 定19

Table with financial data for the anniversary. Columns include '同窓会総会・創立45周年記念' and '収支決算報告'. Rows list income and expenses with amounts in yen.

平成10年6月12日 上記のとおり、周年行事の会計報告をします。

会計代表 江村 雅夫
監査代表 神谷 和雄

同期会だより

同期会は毎回賑やかです。

十数年間のブランクの後、確か同窓会の周年事業の時に、一生懸命名簿を作り、友人に呼び掛け、年賀状を探し、100名を越える参加者を集め開催してから盛り上がり、2、3年おきに開催しています。最近では、平成4年、平成7年とまたかと思うほど開催しています。

今回も2年前に開催したにもかかわらず100名近くの参加者で同窓会の後プリンセスガーデンホテルで開催されました。三輪先生・八谷先生も飛び入り参加いただき、大いに盛り上がりました。同窓会、同期会に引き続き、3次会もほぼ全員が残り、さらに3次会からのメンバーが加わり、くしゃくしゃの状況でした。

いくつかのグループごとに、三々五々深夜の街へと繰り出し、幹事もここで、ほっと一息。会の中で、一泊でゆつかり飲み明かそうという提案もあり、



1回生



4回生



5回生



6回生



15回生

同期会名簿の作成・発送に合わせ早速案内、時期も悪かったのか幹事だけの会になりそうになったのでこれは中止に。幹事会だけ開いても十数名集まるメンバーで楽しくやっています。

ただ今活躍中！

衆議院愛知五区代議士
19回生 木村 隆秀



熱田高校同窓会の皆様の心温まるご支援のおかげで衆議院議員として国政にお送り頂いてから、早いものでもう1年7ヶ月。無我夢中の毎日を送って参りました。朝7時5分名古屋駅の朝食会、国会の委員会・本会議、官僚からの議員説明、同僚議員との打ち合わせ等東京での日程を終えたあとは夕刻また「のぞみ」号で名古屋へ戻り地元の皆様との各種会合へ出席させて頂く、そのような日々を過ごしております。

国会では現在、運輸委員会、科学技術委員会の委員を務めております。先日開幕した通常国会では、2005年の愛知万国博覧会へ向けて開港を目指す「中部新国際空港」法が成立しました。私も名古屋から新空港への交通アクセスについて万全の整備を進めるよう、国会の審議を通じ国に対し強く要請いたしました。国の財政支出抑制の流れの中で、「万博」、「新空港」というビックプロジェクトが確実に実現するよう、地元議員一人として、今後とも全力で取り組んで参りたいと思っております。また先の国会では、商

店街活性化のための「中心市街地再活性化法」が実現しました。都市に住む私たちにあって、商店街は人とのふれあいの場として、思い出多い場所ではないでしょうか。私が生まれ育った尾頭橋もだいたい変わりました。そんな中、人間性回復の場としての商店街の役割が再認識され、商店街活性化へむけ総合的な対策が図られようとしていることは、「物の時代」から「心の時代」への表われとして画期的な画期的なことと評価しています。

私は、「名古屋を日本一住みやすい町」にしたいという思いで政治の道を志しました。私はその初心を忘れることなく今後も政治の道を歩んで参りたいと思っております。戦後の日本の発展を支えたシステムが崩壊する中、先の見えない混沌の時代を迎えています。そんな中、時代を切り開く鍵を見出すため、私は私を支えてくださる方々と日々意見を交わして参りたいと思っております。末永いご指導、ご叱正を賜りますことを心よりお願い申し上げます。



第二代校長藤野源次先生の 米寿祝賀会

旧職員 稲垣 健一

藤野先生米寿おめでとうござい
す。先生が熱田高校の校長時代に
薫陶を受けた旧職員でつくる「むら
さき会」で先生の米寿（八十八才）
の祝賀会を六月二十七日にホテル
「いろは」で開催致しました。

先生には昭和三十五年から四十三年まで八年間の長きに亘り校長として勉学に部活動に先生方の先頭に立って生徒指導に全身全霊をそそがれ、私共に忘れえないご指導をいただきました。

当日は栃木県から山野井先生が来訪され三十一名が先生の米寿を盛大に祝いました。日比野先生の祝辞に始まり関戸先生の発声で杯を挙げ、続いて懇親会に入り親会にのり楽しむに時の過ぎるの忘れましたが先生の卒寿の祝賀会での再会を約し午後八時散会致しました。



同窓短信

絵との出会い

五回生 巻木日出子(旧姓 浜田)

数年前、ダンディーな師に出会い、その、お人柄に惹かれて始めた日本画に今ではすっかり魅了され、雑事の合間に、わくわくした思いで取組んでいます。何よりも対象を見る目が、生き生きとして、季節のうつろい、自然のかたち、人の表情、街並、光彩等、こんなに美しかったのかと、嬉しくなります。これからの長い老後の入口で、素敵な出会いが出来ましたが、まだまだ未知の魅力に出会える事を楽しみにしています。写真、小さな展覧会で、小さな賞を戴いた二十号の作品です。



「ブーツ」で会いましょう

六回生 根津 順子

六回生の私たちがちょうど五十歳になった平成四年の秋、八ヶ岳の麓の「ブーツ」で、東京、名古屋から十一名が集い、一泊二日のミニ同期会を開きました。そこは級友、川松隆信君が経営するペンションです。彼は十数年前に脱サラして、かねてからの夢を実らせ、ペンションのオーナーとなったのです。一回目のその時は、定年退職後まもない生物の小島先生に参加していただき、おまけに運転手までしていただいて、私た

ち女性陣たいへんいい思いをいたしました。

それから四年後の昨年、同期生の幾人かに声をかけ、十月十二日にまた一泊二日で出かけました。今回は三年D組の担任をしていただいた、白木先生が参加され、またまた昭和三十年代の話に花が咲いて、夕食後のひとときは、あつという間に過ぎてしまいました。伊勢湾台風のこと、修学旅行のこ



ペンション「ブーツ」の前にて

と、先生や友達との近況など卒業してこれだけ年数が経つと、先生も生徒もなく気軽に本音の話もできて実に楽しいものです。辺り一面の紅葉のすばらしさと、なつかしい人たちの語らいと、ハイキングとドライブと、とても盛りだくさんのミニ同期会となりました。つぎはまた四年後に企画する予定です。こんどはどなたに会えるでしょう、とても楽しみにしています。

事務局だより

★会員名簿の販売について、残部が百冊あります。ご希望の方は、現金書留で五千円（送料込）を同封のうえ申込み下さい。

★同窓会報八号の発行は、十一年九月下旬頃の予定です。同窓短信・催し物の予定などの原稿を、左記要領

の様式で事務局へ投函ください。

●題名・字数(十六字×三十行)

●写真・回生・文責者名

(事務局住所・宛名)

〒四五六一〇〇五四

熱田区千一〇一七十七

愛知県立熱田高等学校同窓会事務局

★題字 初代書道教諭 名郷柴山先生

訃報

富田 勇夫先生 平9・7・31
浅野 弘教頭 平9・8・19
ご逝去に接し、謹んでご冥福をお祈り申し上げますと共に、お知らせいたします。
（係より）
クラス幹事の皆様へ
訃報は悲しい出来事ですが、事務局まで薬書でご連絡ください。

会報基金会計報告

【収入の部】	
残高	1,776,418円
10月3月末締切	1,465,000
計	3,241,418
【支出の部】	
会報6号関係は全会員へ配布	
発送郵送費@80,@90	1,216,740円
他の郵送費	27,135
会報制作費	1,042,580
寄稿お礼	82,575
諸経費	18,000
計	2,387,030
10月4日1日残高	854,388円

会報基金の募集

同窓会総会でご案内申し上げましたが、会報の復活を計り、一層の情報皆様にお知らせします。しかし、毎号全会員へお届けすると良いのですが、全員配布の費用を約三百万必要とします。そこで、七号は全会員へ送付しますが、八号より会報基金へご協力いただいた会員と幹事会員へ送付の予定です。
基金は、同封の郵便振替用紙で、一口千円を納入ください。